

決算特別委員会（令和2年10月1日～10月12日）

吉田宣弘議員の知事保留質疑

認知症対策（グループホーム）について <10月12日>



（吉田議員） 認知症施策の推進については、先日、飯田部長から力強い答弁を頂き感謝しております。

テーマが大変に重要なテーマでしたので、小川知事に直接お聞きしたいと思います。

国も、昨年、認知症施策推進大綱を策定し、認知症施策を推進しようとしております。

また、認知症は、県民だれもがなりうる症状です。

家族や身近な人が認知症になることもあるかもしれません。多くの県民にとって身近な症状となっております。そして、私自身も認知症になるかもしれないということを思えば、本県における認知症施策をしつかり進めておくことが、今、認知症になっておられる方のみならず、そうでない県民の皆さまにも大きな心の安心につながることを考えます。

そこで、今、申し上げた国の認知症施策推進大綱の策定を受けて、福岡県においては、小川知事のリーダーシップのもと、認知症施策は福岡県が一番進んでいると評されるぐらいに認知症施策を進めて頂きたいと存じますが、知事のお考えをお聞かせ頂ければと思います。

（小川知事） 今後ますます高齢化が進展していく中で、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるため、認知症施策を推進することは、重要なことであると考えている。

県では、認知症の方やその家族を見守る認知症サポーターの養成や、交流の場である認知症カフェの設置・運営に対する助成を行っています。また、認知症に起因して行方不明となった方を発見・保護するためのネットワークの構築



とその広域化も推進しています。

さらに、現役世代で発症する若年性認知症の相談窓口を設置し、本人やご家族に対し、医療・福祉・就労にかかる総合的な支援を実施しています。

昨年6月に、国において、「認知症施策推進大綱」が策定され、認知症に関する取り組みをさらに推進していくこととされました。

県としては、この大綱を踏まえ、施策の充実を図るとともに、関係部局が連携しながら認知症施策に取り組み、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる福岡県を目指してまいります。

(吉田議員) 具体的な強い答弁に感動いたしました。県民の大きな安心につながることを存じます。感謝申し上げます。

ところで、認知症に特化してグループホーム事業を行い、全国展開する団体、全日本認知症グループホーム協会という団体が、毎年、全国大会を開催しております。昨年は、青森県青森市で開催され、厚生労働省、青森県と青森市が後援団体として、大会に名前を刻んでおります。昨年の大会には厚労省から老健局長、青森県知事や青森市長も出席され、大変に充実した大会になったとお聞きしています。私自身も、勉強のために参加する予定でしたが、台風の影響で飛行機が飛ばず、断念をしました。

今年は、本県の久留米市で開催予定でしたが、新形コロナ感染症の影響を受けて、来年に先送りされたところです。新型コロナウイルス感染症は未だ終息しておりませんし、来年の状況も分からないところではありますが、来年の開催に向けて、関係者の皆様が日々、一生懸命ご努力をされておられます。

そこで知事にお聞きします。

来年の開催がどうなるかは分かりませんが、同協会から出席等の案内が小川知事にあれば、是非、前向きに検討されては如何でしょうか。

(小川知事) 認知症グループホームは、認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための施設として、重要な役割を果たしている施設です。

日本認知症グループホーム全国大会が、本県で開催され、関係者の方々が一堂に会し、最新の知見を得るとともに、交流を図ることは、県内の認知症に対する取り組みの向上や、利用者の方の生活環境の改善、県民の理解の促進に繋がることが期待されると考えています。

この大会の出席については、日程の関係もありますが、案内があれば出席す

る方向で検討してまいります。

(吉田議員) 認知症施策の推進、小川知事のリーダーシップを持って力強く進めていただきたいと、大いに期待をしています。